VFR1200F

VFR1200F

Dual Clutch Transmission

オーナーズマニュアル

Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。
安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。
- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要ですので、お守りください。
- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険　指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告　指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意　指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

アドバイス　お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。
車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
この取扱説明書は、**VFR1200F** と **VFR1200F Dual Clutch Transmission (VFR1200FD)** について説明しています。イラストは **VFR1200F** をベースにしています。

目次

安全なライディング P. 3

操作ガイド P. 10

メンテナンス P. 36

こんなときは P. 59

インフォメーション P. 67

スペック P. 78

索引 P. 81

安全なライディング

この章では安全な運転の為に必要な情報を記載しています。
運転者と同乗者の安全の為によくお読みください。

安全上守っていただきたいこと P.3
安全運転のために P.3
運転するときの注意 P.5
アクセサリーと改造について P.9
積載について P.9

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法で定められた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素（CO）などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください
- 同乗者が両手でからだを固定し、両足を後席用ステップにのせているか確認してください
- 急激なハンドル操作や片手運転などは避け、安全な運転を心がけてください
- 同乗者、他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください

乗車時の服装

運転者と同乗者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

ヘルメット
安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車用で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください
- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、目を保護してください

⚠警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

グローブ
摩擦に強い皮製のもの

ブーツまたはライディングシューズ
滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

ジャケット・パンツ
プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

慣らしのポイント（走行距離 500 km まで）

- エンジンの過剰回転をさける
- 急発進、急加速、急ブレーキ、急減速を避け、控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 不必要な急ブレーキ、急なシフトダウンをしない
  - ► タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
  - ► コーナリングの際は、コーナーの手前で減速します。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
  - ► タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。
- 連続したブレーキ操作をしない
  - ► 温度上昇が原因でブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

連動ブレーキシステム

ブレーキペダルを操作すると、後輪ブレーキが作動すると共に前輪ブレーキが作動し、ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。
レバーのみ操作した場合とペダルのみ操作した場合では、制動力が異なるため効き具合に違いがあります。
制動力を効果的に得るためには、レバーとペダルを同時に使う必要があります。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS は、直進制動時のブレーキのかけすぎによる車輪ロックを制御する装置です。
ABS を正常に機能させるため、タイヤは必ず前後輪とも指定タイヤをお使いください。

- 制動距離を短くするためのものではない
  - ► ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。

次ページに続く

- 低速（約 10 km/h 以下）では普通のブレーキと同じ作動になる
- ブレーキ操作時に、レバーやペダルに反動が生じることがある
  ► ABS が作動しているときの現象で異状ではありません。反動の強さは状況によって異なります。

エンジンブレーキ

スロットルを戻すと、エンジンブレーキが効きます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは 5 速、4 速・・・とシフトダウンを行ってください。急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因や、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。また、長い下り坂や急な下り坂などでは、ブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

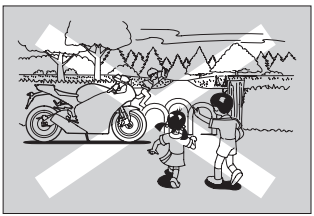
駐車するとき

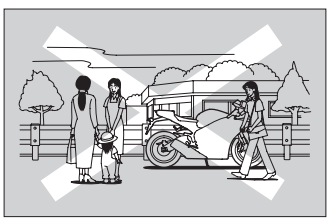
- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜く

サイドスタンドでの駐車

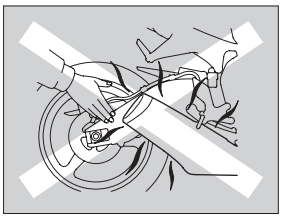
1. エンジンを止める。
2. サイドスタンドを下げる。
3. 車の重量がサイドスタンドにかかるまで、車をゆっくり左に傾ける。
   ► ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
4. ハンドルバーを左いっぱいにきる。
5. ハンドルロックをかけ、キーを抜く。 P.23

● マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する





● エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



⚠注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジンや触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛プレミアムガソリンを使用
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

⚠警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- エンジンを止め、火元を遠ざける
- 給油は必ず屋外で行う
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- 給油作業前に車体や給油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面から Honda 純正アクセサリーを推奨します。Honda 販売店にご相談ください。
Honda 販売店で取り付けられた Honda アクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。
車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。
車の改造は保証の適用を除外されます。

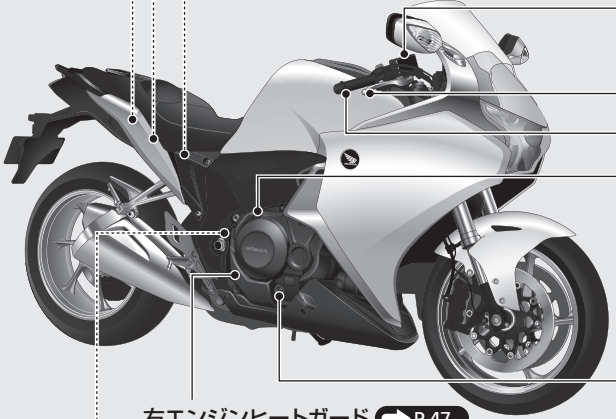
⚠警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
アクセサリーを装着する際は、Honda 販売店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときにくらべて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- ハンドル操作が出来なくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- ヘッドライトレンズやウィンカーレンズ、マフラー周辺への積載は避けてください
  ► 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。

各部の名称
(VFR1200F)



後輪ブレーキリザーバータンク P.51

メインヒューズ B P.66

バッテリー P.48

前輪ブレーキリザーバータンク P.51

ブレーキレバー P.56

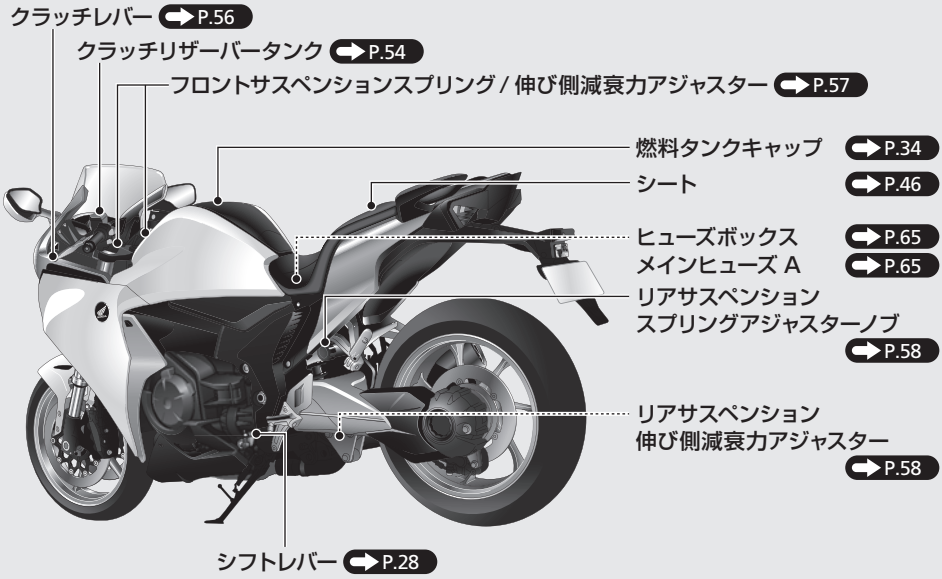
スロットルグリップ P.55

オイルフィルキャップ P.49

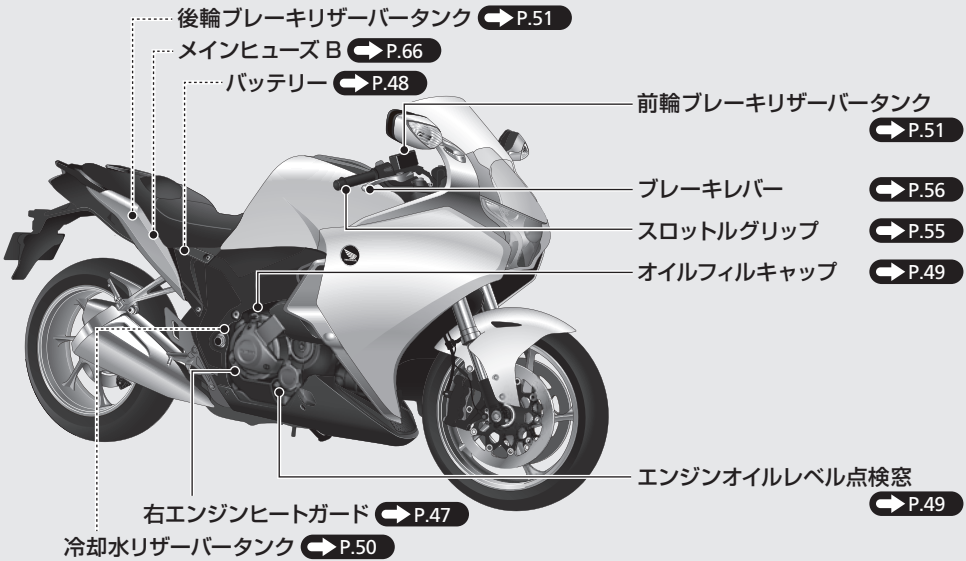
エンジンオイルレベル点検窓 P.49

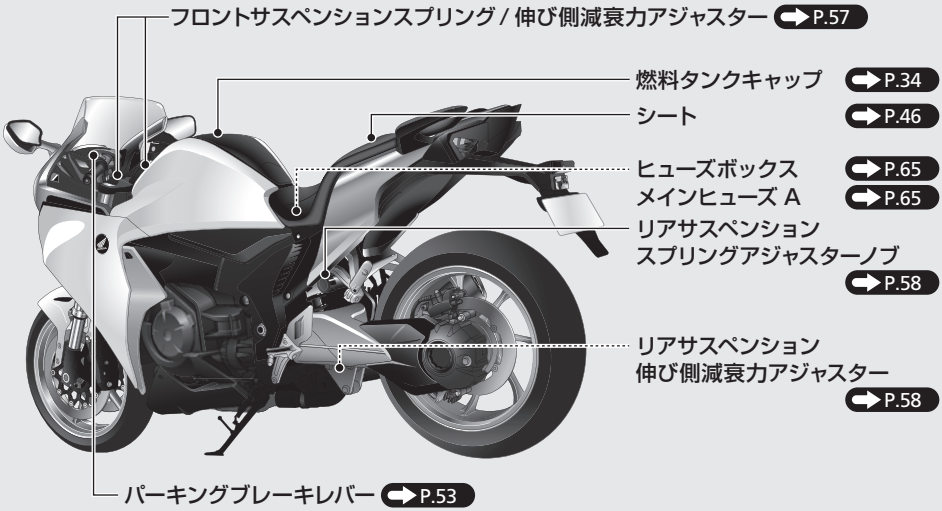
右エンジンヒートガード P.47

冷却水リザーバータンク P.50


クラッチレバー P.56
クラッチリザーバータンク P.54
フロントサスペンションスプリング / 伸び側減衰力アジャスター P.57
燃料タンクキャップ P.34
シート P.46
ヒューズボックス P.65
メインヒューズ A P.65
リアサスペンション
スプリングアジャスターノブ P.58
リアサスペンション
伸び側減衰力アジャスター P.58
シフトレバー P.28

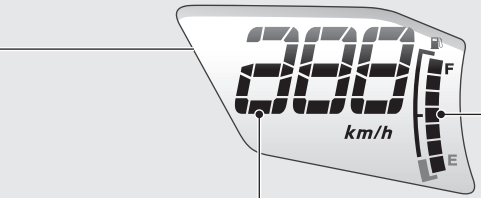
各部の名称 前ページの続き
(VFR1200FD)




フロントサスペンションスプリング / 伸び側減衰力アジャスター P.57
燃料タンクキャップ P.34
シート P.46
ヒューズボックス P.65
メインヒューズ A P.65
リアサスペンション
スプリングアジャスターノブ P.58
リアサスペンション
伸び側減衰力アジャスター P.58
パーキングブレーキレバー P.53

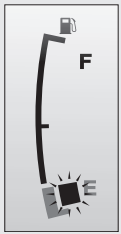
メーター

タコメーター（エンジン回転計）
アドバイス
エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。エンジン寿命に悪影響を与えます。
A ボタン
B ボタン
レッドゾーン
（エンジン限界回転域）



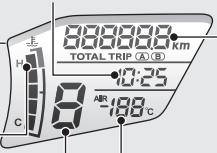
スピードメーター（速度計）

燃料計
マークが 1 つだけ点滅したときの残量 : 約 4.5 ℓ



メーターの初期表示
メインスイッチを ON に回すと、すべての表示があらわれます。表示されない部分がある場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

メーター 前ページの続き
(VFR1200F)



時計（12 時間表示）

外気温計（AIR）

表示範囲：−10 ℃〜 50 ℃

- −11 ℃以下：– –表示
- 50 ℃以上：外気温計（点滅）

► 停止中や低速走行中は外気温が正しく表示されないことがあります。

水温計（上）

- 122 ℃以上：水温警告灯が点灯し、水温計の H 部分が点滅

► 水温が低い場合でも、エンジン回転が上がると冷却ファンが回る場合がありますが異常ではありません。

ギアポジション表示灯

1 速〜 6 速を表示

オドメーター（TOTAL）および トリップメーター（TRIP A／B）

A ボタンを押してオドメーターとトリップメーターを切り換え

- オドメーター：総走行距離
- トリップメーター：B ボタンを押し続け、0 km にリセットしてからの走行距離

時計の合わせかた

1. メインスイッチを ON にする。
2. オドメーターを選択する。
3. 時の表示が点滅するまで B ボタンを押し続ける。

4. B ボタンを押し、時を修正する。
   ▶ ボタンを押し続けると数字が早く進みます。

5. A ボタンを押し、時を決定する。決定と同時に分が点滅する。

6. B ボタンを押し、分を修正する。
   ▶ ボタンを押し続けると数字が早く進みます。

7. A ボタンを押し、分を決定すると設定が終了する。
   ▶ メインスイッチを OFF にすることでも設定を確定できます。

メーター 前ページの続き
(VFR1200FD)

オドメーター（TOTAL）および
トリップメーター（TRIP A/B）
P.17

時計（12 時間表示）
時計の合わせかた
P.17

水温計（ ）
- 122 ℃以上：水温警告灯が点灯し、水温計の H 部分が点滅

► 水温が低い場合でも、エンジン回転が上がると冷却ファンが回る場合がありますが異常ではありません。

外気温計（AIR）
表示範囲：−10 ℃～ 50 ℃
- −11 ℃以下：– –表示
- 50 ℃以上：外気温計（点滅）

► 停止中や低速走行中は外気温が正しく表示されないことがあります。

D 表示灯
オートマチックモードの D モード選択時に点灯 P.32
S 表示灯
オートマチックモードの S モード選択時に点灯 P.32
ギアポジション表示灯
D モード、S モード選択時（オートマチックモード）および、マニュアルモード選択時にギアポジションを表示
► エンジンを始動すると“ ー ”表示が点灯し、数秒後に消灯します。
► メインスイッチが ON の状態で、エンジンストップスイッチを RUN から OFF にすると“ ー ”表示が点滅します。
► エンジンストップスイッチが OFF の状態で、メインスイッチを ON にすると“ ー ”表示が点滅します。

ギアポジション表示灯は、下記の場合も点滅することがありますが異状ではありません。
- 前輪が地面から離れた場合
- メンテナンススタンドを立てるなどして、車輪を空転させた場合

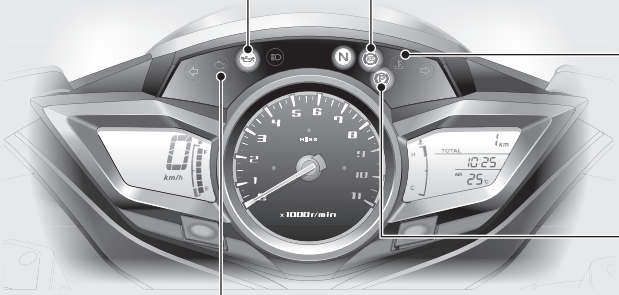
この場合はメインスイッチを OFF にし、再度メインスイッチを ON にします。

走行中にギアポジション表示灯の“ ー ”表示が点滅したときは P.64

警告灯

油圧警告灯
メインスイッチを ON にすると点灯し、
エンジンを始動すると消灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは P.62

ABS 警告灯
メインスイッチを ON にすると点灯し、
速度が約 10 km/h に達すると消灯
走行中に点灯したときは P.63

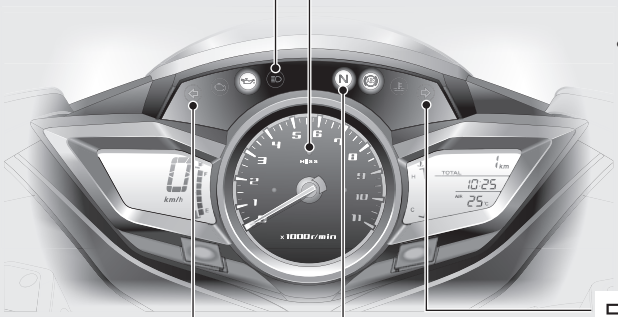


水温警告灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは P.61

パーキングブレーキ警告灯 (VFR1200FD)
パーキングブレーキレバーが完全に戻っていないときに点灯

PGM-FI 警告灯
エンジンストップスイッチが RUN の状態で、
メインスイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは P.62

表示灯



ハイビームパイロットランプ
（前照灯上向き表示灯）

HISS 表示灯 P.69

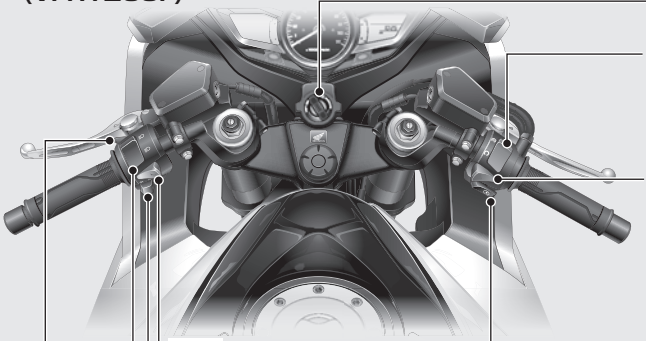
- エンジンストップスイッチが RUN の状態で、メインスイッチを ON にすると一時的に点灯し、すぐに消灯
- メインスイッチを OFF にすると 2 秒間隔で 24 時間点滅

方向指示器表示灯

ニュートラル表示灯
トランスミッションがニュートラルの位置にあるときに点灯

方向指示器表示灯

スイッチ
(VFR1200F)



エンジンストップスイッチ
通常は、RUN位置にしておく
► 非常時に OFF 位置にすると、エンジンを停止できます。

ハザード（非常駐車灯）スイッチ
- メインスイッチが ON の時に使用できる
- ハザードの解除はメインスイッチの位置にかかわらず行える

► ハザードを作動させた状態でメインスイッチを OFF・LOCK した場合でも点滅し続けます。

スタータースイッチ
エンジンストップスイッチが OFF の時はスターターモーターは作動しない
► 作動時は、ヘッドライトが消灯します。

ホーンスイッチ

ウィンカー（方向指示器）スイッチ
► 解除はスイッチを押して行います。

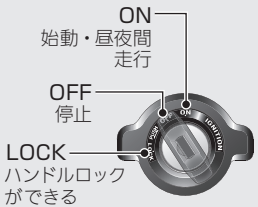
ヘッドライト（前照灯）上下切換スイッチ
- (HI)：ヘッドライトが上向き
- (LO)：ヘッドライトが下向き

パッシングライトスイッチ（追い越し合図）
ヘッドライトが下向きのときのみ作動

メインスイッチ

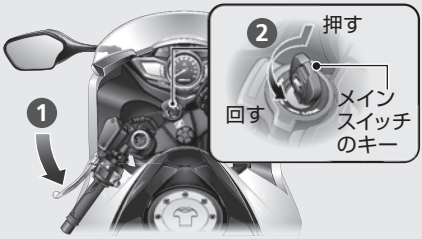
電気回路の ON／OFF、ハンドルロックに使用

► OFF または LOCK の位置で、キーを抜くことができます。



ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
U 字ロックなどの使用も推奨します。



かけかた

1. ハンドルを左にいっぱいにきる。
2. キーを押し込みながら、LOCK の位置まで回す。
   ► ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。
3. キーを抜く。

外しかた

キーを押し込みながら、OFF の位置まで回す。

スイッチ 前ページの続き
(VFR1200FD)

パーキングブレーキレバー / リリースボタン

駐車時と暖機中はパーキングブレーキがかかっていることを確認する

かけかた

パーキングブレーキレバー（①）を手前に引くと、後輪がロックする

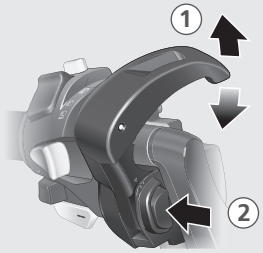
► パーキングブレーキレバーが引かれ、リリースボタン（②）が飛び出ていることを確認してください。

► パーキングブレーキの調整を適切にしないと、ロックされないことがあります。 P.53

解除のしかた

パーキングブレーキレバー（①）を軽く手前に引きながらリリースボタン（②）を押しパーキングブレーキレバーを戻すと、後輪のロックが外れる

► 走行前にパーキングブレーキが完全に解除され、パーキングブレーキ警告灯が消灯していることを確認して下さい。



ハザード（非常駐車灯）スイッチ
P.22

シフトアップスイッチ（＋）
P.32

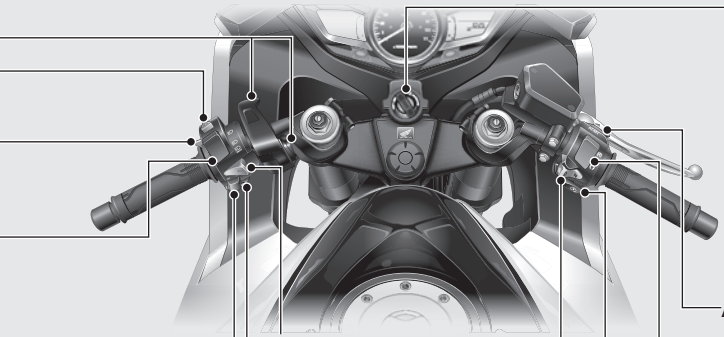
ヘッドライト（前照灯）上下切換スイッチ / パッシングライトスイッチ（追い越し合図）

- （HI）：ヘッドライトが上向き
- （LO）：ヘッドライトが下向き
- PASS：ヘッドライトが下向きのときのみ作動

ウィンカー（方向指示器）スイッチ

► 解除はスイッチを押して行います。

シフトダウンスイッチ（－）
P.32



メインスイッチ
電気回路の ON/OFF、ハンドルロックに使用
► OFF または LOCK の位置で、キーを抜くことができます。
ハンドルロック P.23

AT/MT スイッチ
AT（オートマチック）モードと MT（マニュアル）モードの切換え
P.32

エンジンストップスイッチ
通常は、RUN位置にしておく
► 非常時に OFF位置にすると、エンジンを停止できます。

ホーンスイッチ

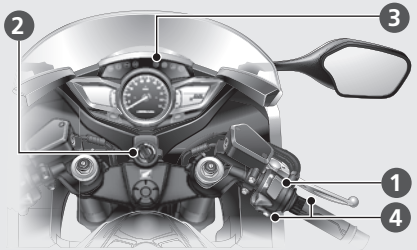
N-D スイッチ
ニュートラルと AT（オートマチック）モードの切換え P.32

スタータースイッチ
エンジンストップスイッチが OFF の時はスターターモーターは作動しない
► 作動時は、ヘッドライトが消灯します。

エンジン始動

(VFR1200F)

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。



アドバイス

- スタータースイッチを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチをOFFにしてください。その後バッテリー電圧回復のため10秒ほど経ってからやり直してください。
- 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチをOFFにしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

1. エンジンストップスイッチが RUN の位置にあるか確認する。
2. メインスイッチを ON に回す。
3. ギアをニュートラルにする。(表示灯点灯)
   ► ギアが入った状態では始動しません。ただし、サイドスタンドが格納されている状態でクラッチレバーを握れば始動します。
4. スロットルグリップを閉じたまま、スタースイッチを押す。

エンジンがかからないときは

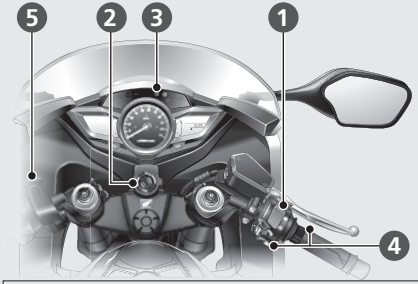
次の方法を試してください。

(1) スロットルグリップを全開にし、スタースイッチを 5 秒間押す。
(2) 通常手順 (1)～(4) でエンジンをかける。
(3) エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し開ける。
(4) エンジンがかからないときは 10 秒間待ってから、(1)(2)の手順を繰り返す。

それでも始動できないときは P.60

(VFR1200FD)

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。



アドバイス

- スタータースイッチを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチをOFFにしてください。その後バッテリー電圧回復のため10秒ほど経ってからやり直してください。
- 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチをOFFにしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

1. エンジンストップスイッチがRUN○の位置にあるか確認する。
2. メインスイッチを ON に回す。
3. ギアがニュートラルになっているか確認する。(表示灯点灯)
4. スロットルグリップを閉じたまま、スタータースイッチを押す。
5. 走行前にパーキングブレーキが完全に解除されているか確認する。

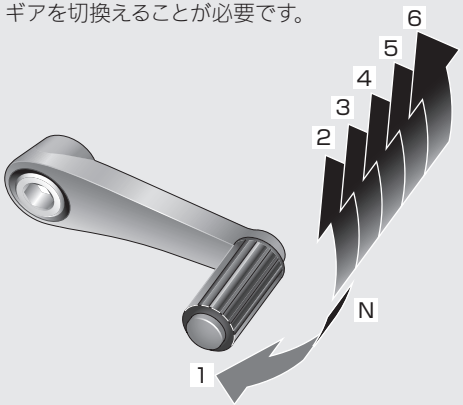
エンジンがかからないときは P.26

エンジンを停止するときは

1. ギアをニュートラルにする。(表示灯点灯)
2. メインスイッチを OFF に回す。
3. 駐車の際には、パーキングブレーキレバーを引く。

ギアチェンジ
(VFR1200F)

この車のトランスミッションは、下1速、上5速シフトの6速リターン式です。速度に応じてギアを切換えることが必要です。



走行前に、サイドスタンドが完全に納まっているか確認してください。
サイドスタンドを出したままギアチェンジを行うと、エンジンが停止します。

速度範囲

1速	0～75 km/h
2速	25～125 km/h
3速	35～165 km/h
4速	45～180 km/h
5速	50～180 km/h
6速	55 km/h以上

シフトダウンについて

追い越しなど、強力な加速が必要なときはシフトダウンをします。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因や、走行安定性を損なうほか、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。次の速度内で行ってください。

シフトダウン可能限界速度

6速→5速	180 km/h以下
5速→4速	180 km/h以下
4速→3速	165 km/h以下
3速→2速	125 km/h以下
2速→1速	75 km/h以下

(VFR1200FD)

VFR1200FD は 6 速オートマチックトランスミッションを装備しています。AT モード時には自動的に変速し、MT モード時にはスイッチ操作で変速することができます。

サイドスタンドを出したままギアチェンジを行うと、クラッチが切れた状態でエンジンが停止します。

速度範囲

1 速	0 ～ 75 km/h
2 速	20 ～ 120 km/h
3 速	35 ～ 155 km/h
4 速	45 ～ 180 km/h
5 速	50 ～ 180 km/h
6 速	55 km/h 以上

シフトダウンについて

追い越しなど、強力な加速が必要なときはシフトダウンをします。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因や、走行安定性を損なうほか、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。次の速度内で行ってください。

シフトダウン可能限界速度

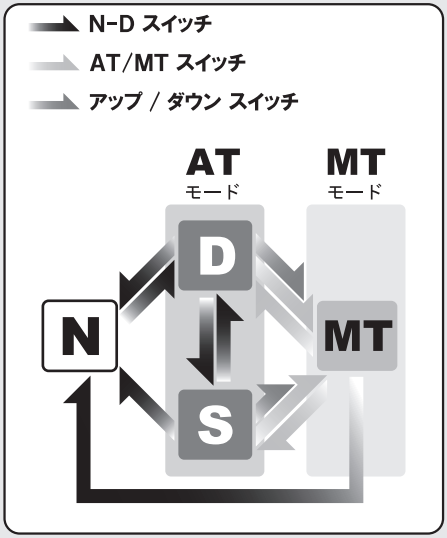
6 速→ 5 速	180 km/h 以下
5 速→ 4 速	180 km/h 以下
4 速→ 3 速	155 km/h 以下
3 速→ 2 速	120 km/h 以下
2 速→ 1 速	75 km/h 以下

ギアチェンジ 前ページの続き
(VFR1200FD)
DCT(デュアルクラッチトランスミッション)

DCTには3つのモードがあり、走行状況やライディングスタイルに合わせ選択することができます。

走行状況に合わせた最適なタイミングで自動的にシフトアップ・シフトダウンを行うATモードには、通常走行用のDモードと、よりスポーティーなSモードの2つの走行モードがあります。
MTモードでは、シフトスイッチ操作により、マニュアルでのシフトアップ・シフトダウンが可能です。

DCTシステムは自己診断機能を備えており、エンジン始動直後にギアポジション表示灯に“ー”が数秒間表示され、その後消灯します。
“ー”が表示されている間は走行モードに切換えできません。



ニュートラル（N）：
メインスイッチを ON にすると自動的に選択されます。

メインスイッチを ON にしてもニュートラルにならない場合：
- メインスイッチを OFF にし、再度 ON にする
- それでもニュートラルが選択されない場合 P.64

► ギアがニュートラルに切換わるときに音がすることがありますが、異常ではありません。

N と D の切換え可能な条件：
- 停止した状態でアイドリングしている
- スロットルを完全に閉じている
  ► スロットル操作中は N と D の切換えはできません。
- ホイールが静止している
  ► ホイールが回転している状態では、N と D の切換えはできません。

アドバイス
クラッチの損傷を避けるため、長時間上り坂でスロットルを操作して停止状態を保たないでください。

オートマチック (AT) モード：
このモードでは走行状況に従って自動的にギアが変速されます。
AT モード内では D モード、S モードの 2 種類のモードを選択できます。
D モード： AT モードを選択時の標準モードです。通常走行や燃費走行の場合に選択します。
S モード： AT モード選択時での追い越しや登坂、引き離しなど、より大きな駆動力が必要な場合に選択します。

マニュアル (MT) モード：
6 速マニュアル操作です。
シフトスイッチ操作により、任意に 1 速～ 6 速を選択できます。

ギアチェンジ 前ページの続き

(VFR1200FD)
ニュートラルと AT、MTモードの切換え

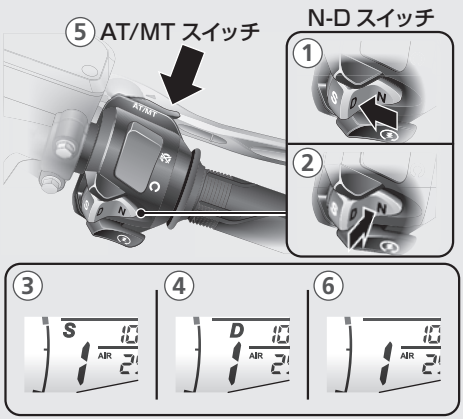
ニュートラル（N）から AT モードへの切換え
N-D スイッチの D/S 側を押します（①）。
D 表示灯が点灯し、ギアポジション表示灯に “1” が表示され、ギアが 1 速に入ります。

AT、MT モードからニュートラルへの切換え
N -D スイッチの N を押します（②）。

AT モード時の D モードと S モードの切換え
N-D スイッチの D/S 側を押します。S 表示灯もしくはD表示灯が点灯します（③、④）。

AT モードと MT モードの切換え
AT/MT スイッチを押します（⑤）。
MT モード選択時は、S 表示灯もしくはD表示灯は点灯しません（⑥）。

＋、－スイッチによる AT モードとMTモードへの切換え
シフトアップスイッチ(＋)を押すと、1 速シフトアップして MT モードに切換わります。
シフトダウンスイッチ（－）を押すと、1 速シフトダウンして MT モードに切換わります。



MT モード時の走行

＋、－スイッチでシフトアップ、シフトダウンを行います。選択されたギアは、ギアポジション表示灯に表示されます。

- ► MT モード時にギアは自動的にシフトアップしません。エンジン回転数がレッドゾーンに入らないようにしてください。
- ► MT モード時でも低速になると、ギアは自動的にシフトダウンします。
- ► MT モード時でも発進は 1 速から行います。

ダウンシフティングブリッピングコントロール

MT モード時におけるスロットル全閉時のシフトダウンの際に、ギア比に合わせてエンジン回転数を自動的に上げる制御を行います。

- ► 走行状況によっては、エンジン回転数を上げない事があります。

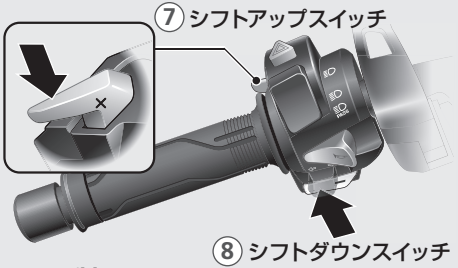
シフトアップ：

シフトアップスイッチ（＋）を押します（⑦）。

シフトダウン：

シフトダウンスイッチ（－）を押します（⑧）。

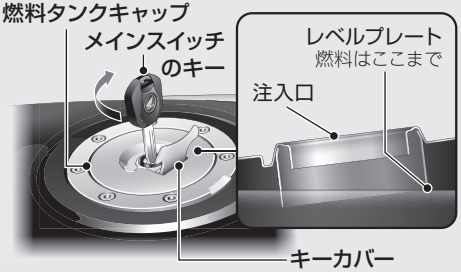
- ► シフトスイッチを押したままでは連続で変速しません。続けて変速をするときは、一度シフトスイッチから指を離して再びシフトスイッチを押してください。



シフト制限

エンジン回転数がレブリミットを越える場合はシフトダウンはできません。

燃料補給



燃料がにじみ出ることがあるので、レベルプレート下端以上入れないでください。

使用燃料 ：無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：18 ℓ

► 無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合には、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合エンジン性能を十分に発揮できません。

燃料についての注意 P.8

タンクキャップの開けかた

キーカバーを開け、キーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開ける。

タンクキャップの閉じかた

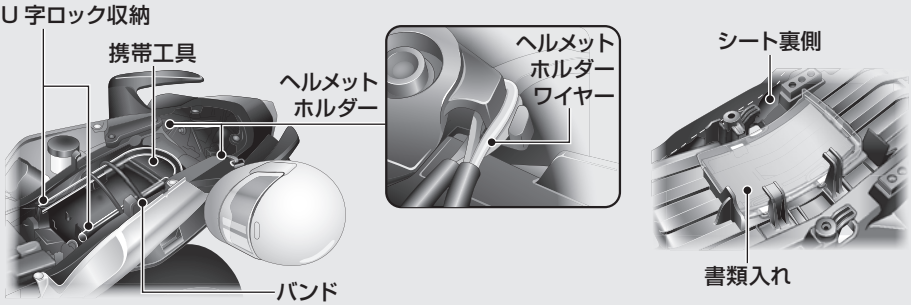
1. 燃料タンクキャップを手で確実に押してロックする。
2. キーを抜き、カバーを閉じる。
   ► キャップがロックされないと、キーは抜けません。

⚠警告

ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。
➡**燃料補給およびガソリンの取り扱い** P.8

その他装備の使いかた

シート下にヘルメットホルダー、ヘルメットホルダーワイヤー（携帯工具）、携帯工具、U 字ロック収納があります。書類入れはシート裏側にあります。



- ► U 字ロックは、図のようにリアフェンダーの上に格納し、バンドでしっかりと固定してください。
- ► ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。
- ► U 字ロックは、形状によって収納できない場合があります。

シートの取り外しかた P.46

⚠警告

ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識.....P.37
主要部品の脱着方法.....P.46
シート.....P.46
右エンジンヒートガード.....P.47
バッテリー.....P.48
エンジンオイル.....P.49
冷却水.....P.50
ブレーキ／クラッチ.....P.51
スロットル.....P.55
その他の調整.....P.56
レバーの距離調整.....P.56
フロントサスペンションの調整.....P.57
リアサスペンションの調整.....P.58

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1 年ごと（12 か月ごと）、2 年ごと（24 か月ごと）の定期点検整備が義務付けられています。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

⚠警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- エンジンを停止し、キーを抜いた状態で行う
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令にしたがって、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

異音や異状を感じたときは、ただちに Honda 販売店にご相談ください。

日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

- **ブレーキ**
  - レバーの遊び（油圧式）
  - ペダルの遊び（油圧式）
  - ブレーキの効き具合
  - ブレーキ液の量
- **タイヤ**
  - 空気圧
  - 亀裂、損傷
  - 異状な摩耗
  - 溝の深さ
- **エンジン**
  - 冷却水の量
  - エンジンオイルの量
  - かかり具合、異音
  - 低速、加速の状態
- **灯火装置および方向指示器**
- **運行において異状が認められた箇所**

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから1か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、Honda が指定する点検整備項目もあります。

道路運送車両法で定められた点検

道路運送車両法で定められた点検には、以下の種類があります。

- 日常点検
- 1 年ごと（12 か月ごと）に行う点検
- 2 年ごと（24 か月ごと）に行う点検

小型二輪車［250 cm^3（cc）を超えるもの］は、1 回目を登録日から 3 年後に、2 回目以降は 2 年ごとに、国で定める継続検査が必要です。

ご自身で点検を実施する場合

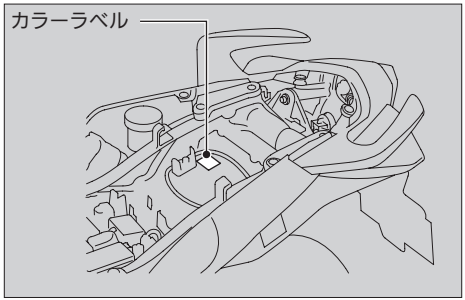
安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda 販売店にご相談ください。
点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

1 か月目点検について

新車から 1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげの Honda 販売店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

交換部品について

整備の際は、Honda 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。カラーラベルは、シートを取り外すと確認できます。P.46



⚠警告

Honda 純正部品以外のアクセサリー・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。
Honda 純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。
また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス
バッテリーには寿命があります。交換時期については、Honda 販売店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が目に付着したとき
  ► コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
  ► 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
  ► 水、または牛乳を飲んでください。

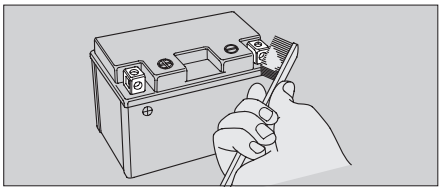
⚠警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かない
- ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

ターミナル部の清掃

1. バッテリーを取り外す。➔P.48
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



4. 清掃後、バッテリーを取り付ける。

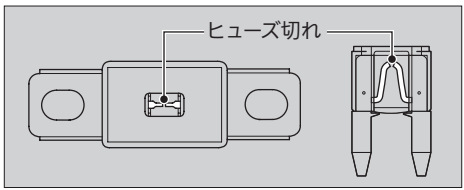
電装部品やアクセサリーを取り付けるときは純正アクセサリーをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。➔P.65

ヒューズの点検・交換

メインスイッチを切り、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。
ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。➔P.80



アドバイス
指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

エンジンオイル

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。
オイル交換は Honda 販売店で行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。
➔P.79

エンジンオイルの選び方

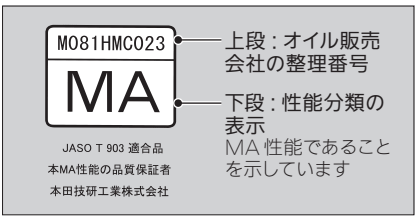
推奨エンジンオイル：
Honda 純正　ウルトラ G1

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記のすべての規格を満たしているオイルをお選びください。すべての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※1：MA
- SAE 規格※2：10W-30
- API 分類※3：SG・SH・SJ・SL 級相当

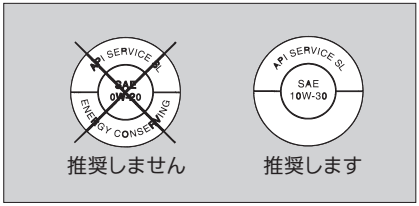
また必要以上に摩擦を低減するオイル添加剤はエンジンやクラッチの性能や寿命に悪影響を与える場合がありますので使用しないでください。

※1：JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※2：SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3：API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



ブレーキ液（クラッチ液）

銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

アドバイス

ブレーキ液は、プラスチックや塗装面を損傷します。漏れたブレーキ液は直ちに拭き取ってください。

指定ブレーキ液

Honda 純正ブレーキフルード DOT 4

冷却水

Honda 純正ラジエーター液を、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

指定濃度：30%（寒冷地は 50%）
濃度による不凍温度：
30%の場合：-16℃まで
50%の場合：-37℃まで

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適当な水（井戸水や天然水）を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリーナー

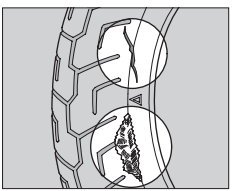
この車には、ろ紙式のエアクリーナーエレメントが装備されており点検が必要です。
エアクリーナーエレメントの点検・交換は、Honda 販売店にご相談ください。点検・交換時期はスペックページをご確認ください。P.79

タイヤ

空気圧の点検

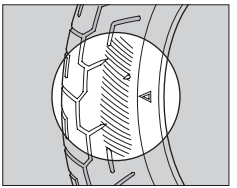
タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも1か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。
タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

亀裂と損傷の点検



タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

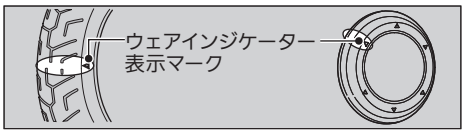
異状な摩耗の点検



タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、ただちに交換してください。また、安全走行のため、トレッド中央部の溝の深さが最小残溝量になったときは交換してください。



⚠警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。
取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

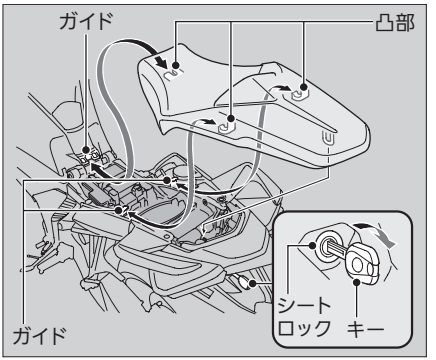
タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda 販売店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧、最小残溝量（溝の深さ）はスペックページをご確認ください。➔P.79

⚠警告

指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

シート



取り外し

1. メインスイッチのキーをシートロックに差し込み、右に回して保持しながらシートロックを解除する。
2. シートを後方へずらしながら持ち上げて取り外す。

取り付け

1. フレームのガイドにシートの凸部を差し込む。
2. シートを前方へ押し下げ、ロックする。

シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。

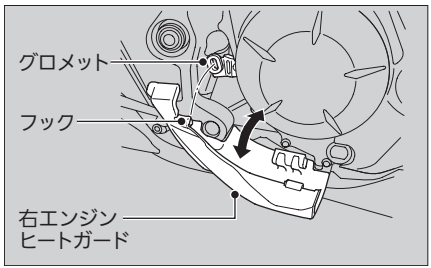
メインスイッチのキーをシート下に置き忘れた状態でシートを取り付けると、自動的にロックされ、キーを取り出せなくなりますのでご注意ください。

右エンジンヒートガード

冷却水の補充やエンジンナンバーの確認は、右エンジンヒートガードを開けて行います。

開けかた

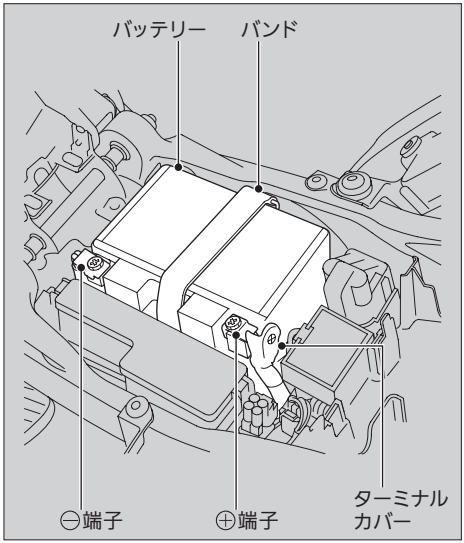
1. 右エンジンヒートガードを開ける。



閉じかた

1. 右エンジンヒートガードを閉じる。

バッテリー



取り外し

1. シートを取り外す。➔P.46
2. バンドを取り外す。
3. ⊖端子のボルトを外し、⊖コードを外す。
4. ターミナルカバーをめくり、⊕端子のボルトを外し、⊕コードを外す。
5. 端子のナットを落とさないよう、バッテリーを取り出す。

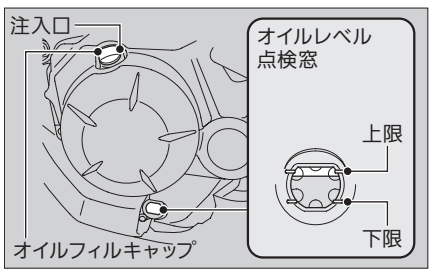
取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。

バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。➔P.40

エンジンオイルの点検

1. エンジンが冷えている場合は、3～5分ほどアイドリングさせる。
2. メインスイッチを OFF にしてエンジンを止め、2～3分間待つ。
3. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立て、車を倒さないようにまっすぐに起こす。
4. オイルレベルが点検窓の上限と下限の間にあることを確認する。



エンジンオイルの補給

エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。

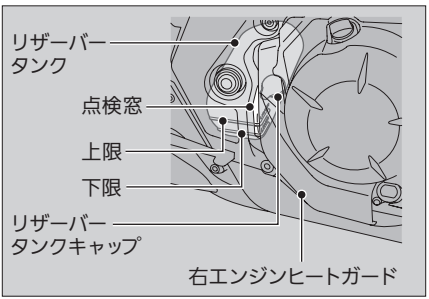
1. エンジンオイルの点検後、オイルレベル点検窓で確認しながら、オイルを注入口より補給する。
   - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
   - ▶ ごみが入らないようにしてください。
   - ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。
2. オイルフィルキャップを確実に取り付ける。

アドバイス
オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。
➔P.42

冷却水の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. 車を倒さないようにまっすぐに起こす。
3. 冷却水がリザーバータンクの上限と下限の間にあることを点検窓から確認する。



冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバータンクに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

冷却水の補給

冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. 右エンジンヒートガードを開ける。➡P.47
2. リザーバータンクキャップを取り外し、冷却水のレベルを確認しながら補給する。
   - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
   - ▶ ごみが入らないようにしてください。
3. キャップを確実に取り付ける。
4. 右エンジンヒートガードを閉じる。➡P.47

⚠警告

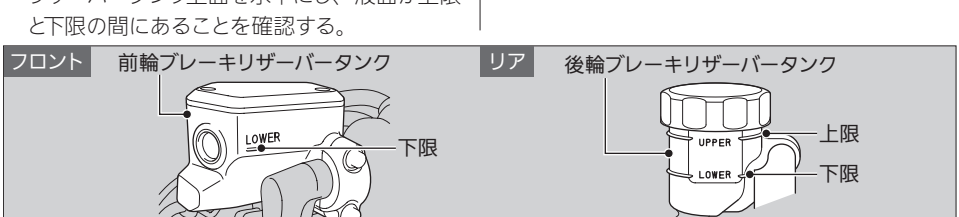
エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

ブレーキ液の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. フロント リザーバータンク上面を水平にし、液面が点検窓の下限（LOWER）以上にあることを確認する。
3. リア シートを取り外す。P.46
   リザーバータンク上面を水平にし、液面が上限と下限の間にあることを確認する。

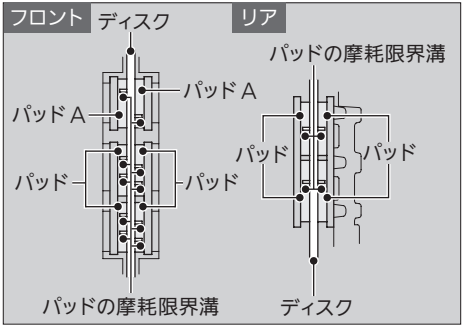
► 液面が下限以下の場合やブレーキレバーとブレーキペダルの遊びが大きいときは、ブレーキパッドの摩耗の点検を行ってください。

パッドが摩耗していない場合、あるいは液漏れやホースに損傷がある時は Honda 販売店にご相談ください。



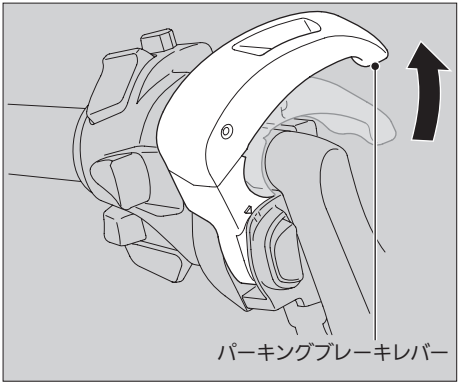
ブレーキパッドの摩耗の点検

パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。
摩耗限界に達したら左右同時にパッドを交換してください。
ブレーキパッドの交換は、Honda 販売店にご相談ください。



1. フロント ブレーキキャリパーの前側からのぞいて点検します。
   ▶ 点検は片側だけでなく、左右のキャリパーで行ってください。
   ▶ 左ブレーキキャリパーのパッドAはブレーキペダルと連動しています。
   パッドAの摩耗量は他のパッドの摩耗量と異なる場合があります。
2. リア 車の右後ろ側からキャリパーをのぞいて点検します。

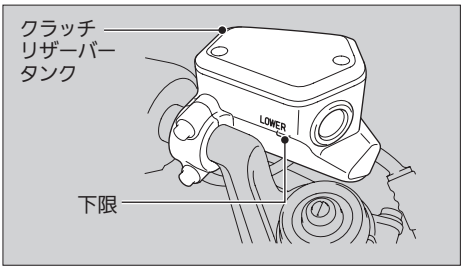
パーキングブレーキの点検 (VFR1200FD)



1. 足場のしっかりとした平坦地でエンジンを停止させる。
2. パーキングブレーキレバーを引いてから車を押し、パーキングブレーキの効き具合を点検する。

パーキングブレーキの効きが弱い時は Honda 販売店にご相談ください。

クラッチ液の点検 (VFR1200F)



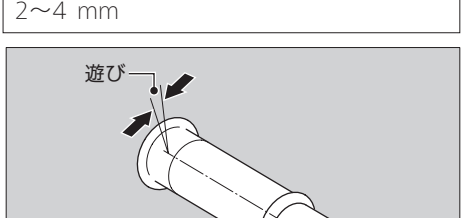
1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. ハンドルを動かしてリザーバータンク上面を水平にし、クラッチ液の液面が点検窓の下限（LOWER）以上にあることを確認する。

液面が低い場合、あるいは液漏れやホースに損傷がある時は Honda 販売店にご相談ください。

スロットルの点検

エンジンを停止させた状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、スロットルグリップの遊びが適正か点検します。異状を感じた場合やスロットルケーブル外表部に損傷がある時はHonda 販売店にご相談ください。

スロットルグリップの遊び：
2〜4 mm



レバーの距離調整

クラッチレバーとブレーキレバーのそれぞれに、レバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスターが装備されています。

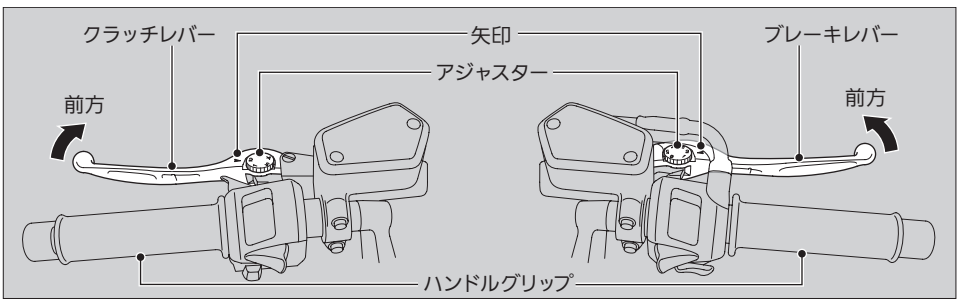
調整方法

レバーを前方に押しながらアジャスターを回し、アジャスターの数字と矢印が合う位置で段階的に調整します。

調整後は、走行する前にクラッチ、ブレーキがそれぞれ正常に作動することを確認してください。

アドバイス
調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。

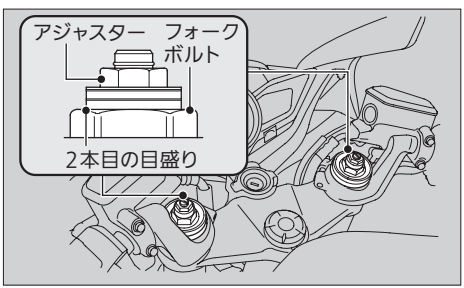
VFR1200FD にはクラッチレバーとクラッチアジャスターは装備されていません。



フロントサスペンションの調整

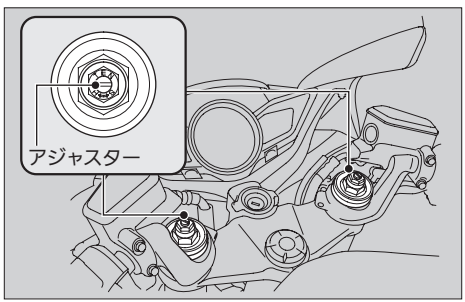
スプリング

体重や路面の状態などに応じ、スプリングの強さを調整できます。
スプリングの強さは、アジャスターを右（時計回り）に回すと強くなり、左（反時計回り）に回すと弱くなります。
標準は、アジャスターの上から 2 本目の目盛りがフォークボルトの上端に合う位置です。



伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。減衰力の強さは、アジャスターを右（時計回り）に回すと強くなり、左（反時計回り）に回すと弱くなります。標準は、右回りに止まるまで回した後、左回りに6クリック戻した位置です。

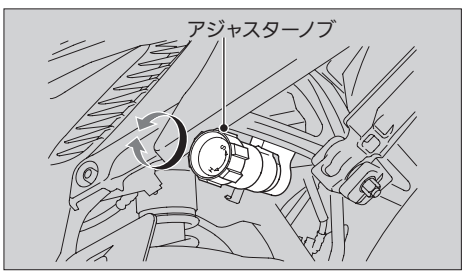


アドバイス
アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

リアサスペンションの調整

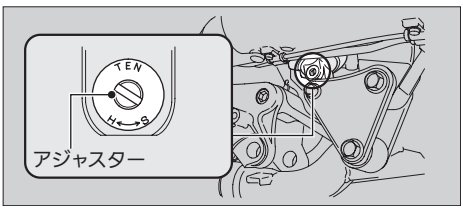
スプリング

体重や路面の状態に応じ、スプリングの強さを調整できます。スプリングの強さは、アジャスターノブを右回りに回すと強くなり、左回りに回すと弱くなります。標準は、左回りに止まるまで回した後、右回りに 11 クリック **(VFR1200F)**/15 クリック **(VFR1200FD)** 戻した位置です。



伸び側減衰力

体重や路面の状態に応じ、伸び側減衰力を調整できます。減衰力の強さは、アジャスターを H 側（右回り）に回すと強くなり、S 側（左回り）に回すと弱くなります。標準は、右回りに止まるまで回した後、左回りに 3/4 回転戻した位置です。



アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。

こんなときは

エンジンが始動しない
（HISS表示灯が消灯しない） P.60
オーバーヒート（水温警告灯が点灯） P.61
警告灯が点灯／点滅 P.62
油圧警告灯 P.62
PGM-FI警告灯 P.62
ABS（アンチロックブレーキシステム）
警告灯 P.63
走行中にギアポジション表示灯の
“ ー ”表示が点滅 P.64
電装部品のトラブル P.65
ヒューズ切れ P.65

スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか ➡P.26, 27
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- PGM-FI 警告灯が点灯していないか
  ► 点灯している場合は、ただちに Honda 販売店にご相談ください。
- HISS 表示灯が点灯したままになっていないか
  ► メインスイッチを OFF にしてキーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイッチを ON にしてください。それでも消灯しないときは、次の点を確認してください。
  他の HISS のキー（予備のキーを含む）が、メインスイッチの近くにあると通信不良の原因となります。
  キーに金属製のシールなどを貼ると通信不良の原因となります。
  確認しても消灯しない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

スターターモーターが作動せず始動できないとき

次の点を確認してください。

- エンジンストップスイッチが OFF になっていないか
- ヒューズが切れていないか ➡P.41
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ➡P.40

これらに該当しない場合や異常がある場合は、Honda 販売店にご相談ください。

オーバーヒート（水温警告灯が点灯）

次のようなときは、オーバーヒートです。
- 水温警告灯が点灯している
- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときはただちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス
オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。

オーバーヒートの処置

1. メインスイッチでエンジンを止め、再度メインスイッチを ON にする。
2. ラジエーターの冷却ファンが作動するか作動音で確認し、メインスイッチを OFF にする。

冷却ファンが作動しない場合
故障が考えられますので、エンジンをかけず Honda 販売店にご相談ください。

冷却ファンが作動している場合
メインスイッチが OFF の状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

3. エンジンが冷えてから、リザーバータンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。➔P.50
4. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合
エンジンをかけず、Honda 販売店にご相談ください。

5. 水温計で冷却水の温度を確認しながら走行する。

油圧警告灯

エンジンオイルの油圧が低下すると点灯します。油圧警告灯が点灯したら、速やかにエンジンを停止し、次の点を確認してください。

アドバイス
油圧が低下した状態で走行を続けると、エンジンが故障するおそれがあります。

1. オイルレベルを点検し、必要に応じて補給する。P.49
2. エンジンを始動する。
   - ▶ 油圧警告灯が消えたら、走行できます。
   - ▶ 消灯しない場合は、エンジンを止めてHonda 販売店にご相談ください。
   - ▶ 急な加速をすると油圧警告灯が瞬間的に点灯する場合があります。（特にオイルレベルが下限、下限付近の場合）
   - ▶ オイルが減っていた場合、オイル漏れや故障のおそれがありますので、Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯

走行中に点灯した場合は何らかの異常が考えられます。高速走行を避け、ただちに Honda 販売店にご相談ください。

ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、Honda 販売店にご相談ください。

- 運転中に点灯または点滅したとき
- メインスイッチを ON にしても点灯しないとき
- 10 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

警告灯が点灯または点滅した場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABS としての作動はしません）
ABS 警告灯が消灯した状態で、メンテナンススタンドを立てるなどして後輪を空転させた場合、警告灯が点滅する場合があります。この場合はメインスイッチを OFF にし、再度メインスイッチを ON にします。警告灯が点灯し、速度が約 10 km/h に達して消灯すれば正常です。

走行中にギアポジション表示灯の“ – ”表示が点滅

(VFR1200FD)

走行中にギアポジション表示灯の“ – ”表示が点滅したときはデュアルクラッチトランスミッションの異状が考えられます。

ただちに安全な場所に車を停めて Honda 販売店にご相談ください。

次の処置を試すことで、ご自身で Honda 販売店まで走行できる場合があります。

1. メインスイッチを OFF にする。
2. 再度メインスイッチを ON にして、エンジンを始動する。

エンジンが始動できない場合

メインスイッチを OFF にして、ギアの噛みこみを外すためにお車を前後に少し動かしてください。再度メインスイッチを ON にして、エンジンを始動します。

それでもエンジンが始動できない場合

ブレーキレバーを握るか、ブレーキペダルを踏み込みながらエンジンを始動します。

N から D への切換えができた場合

ギアポジション表示灯に表示されたギアで走行できます。

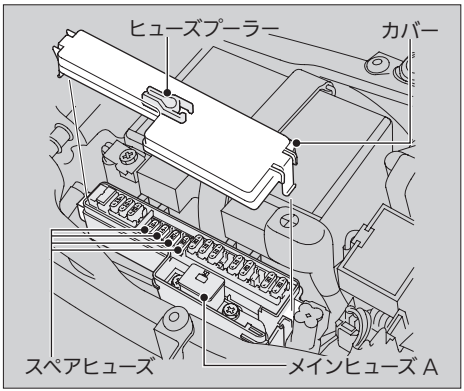
安全な速度で走行してください。

N から D への切換えができなく、ギアポジション表示灯の“ – ”表示が点滅している場合

故障が考えられますので、エンジンを始動せず、ただちに Honda 販売店にご相談ください。

ヒューズ切れ

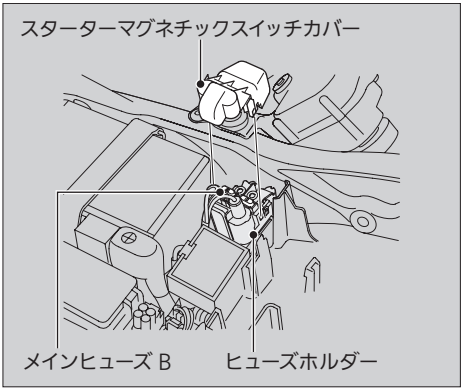
ヒューズボックス内のヒューズ



1. シートを取り外す。P.46
2. ヒューズボックスのカバーを取り外す。
3. メインヒューズ A、その他のヒューズが切れている場合はヒューズプーラーを使って、同じ容量の予備ヒューズと交換する。
4. ヒューズボックスのカバーを取り付ける。
5. シートを取り付ける。

ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。P.41

ヒューズホルダー内のヒューズ



1. シートを取り外す。 P.46
2. スターターマグネチックスイッチカバーを取り外す。
3. メインヒューズ B、その他のヒューズが切れている場合はヒューズプーラーを使って、同じ容量の予備ヒューズと交換する。
   - ▶ スペアヒューズはヒューズボックス内にあります。
   - ▶ ヒューズプーラーはヒューズボックスカバー内にあります。
4. 外した部品を逆の手順で取り付ける。

アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めに Honda 販売店で点検し、予備のヒューズを補充してください。

インフォメーション

キーの取り扱い……P.68
装備に関する補足情報……P.68
車のお手入れ……P.70
保管のしかた……P.73
廃棄するとき……P.73
フレームおよびエンジンナンバー……P.76
触媒装置について……P.77

キーの取り扱い

メインスイッチのキー

メインスイッチのキーには、HISS（イモビライザーシステム）の電子部品が内蔵されています。電子部品の破損またはデータ異常の発生を防ぐため、取り扱いの際には次のことをお守りください。

- キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えない
- 長時間、直射日光にさらしたり高温下で放置しない
- 削ったり、穴を開けない
- 強い磁気を帯びた場所に置かない

キーをすべて紛失した場合、イグニッションユニットの交換が必要になります。予備のキーは大切に保管してください。
予備のキーの作成については、専用のキーおよびHISS の再登録が必要になりますので、Honda 販売店にご相談ください。

装備に関する補足情報

メインスイッチ

この車はメインスイッチを ON にすると、ヘッドライトが常時点灯します。エンジンをかけずに ON の状態にしておくとバッテリーあがりの原因となります。

エンジンストップスイッチ

このスイッチは、非常時に、すぐにエンジンを止めるために設けたものです。非常時以外は使用しないでください。走行中に操作すると、エンジン回転が不安定になり、走行に悪影響を与えます。
非常時にこのスイッチでエンジンを止めた場合は、メインスイッチを必ず OFF にしてください。ON のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

HISS
HISS は、登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたイモビライザー（盗難防止）システムです。
エンジンストップスイッチが RUN (⟳) の状態でメインスイッチを ON にすると、HISS 表示灯が点灯し、数秒後に消灯することでエンジンの始動が可能であることを示します。消灯しない場合は始動できません。
➡HISS 表示灯が消灯しないとき P.60

HISS 表示灯は、メインスイッチを OFF にしたあと 2 秒間隔の点滅を開始し、24 時間経過すると消灯します。
以下の操作を行うことで、点滅しないようにすることができます。

1. メインスイッチを ON にしてからオドメーターを表示させ、A ボタン (➡P.14) を 2 秒以上押し続ける。
   ▶ このとき、表示灯が一度点滅します。
2. メインスイッチを OFF にする。

書類入れ
取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、シートの裏側に収納してください。

イグニッションカットオフシステム
この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度 OFF にしてください。

ポジションライト
LED 使用のランプは一体式です。
もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、Honda 販売店にご相談ください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
   ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用は避ける
  ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
  ▶ ヘッドライトレンズや、フェアリングその他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- マフラーに水を入れない
  ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- シートの下方から水を強くかけない
  ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- エアクリーナー周辺に水を強くかけない
  ▶ エアクリーナー内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- ブレーキを濡れたままにしない
  ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。

- ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
  - ▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
  - ▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーの目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
- ヘッドライトがくもったとき
  - ▶ ヘッドライトを点灯すると、くもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- アルミホイールはすり当てを避け、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

フェアリング、ウインドスクリーン

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、スクリーン、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする
- スクリーンに貼付されているコーションラベルをはがさない

エキゾーストパイプ、マフラー

ステンレス鋼を使用していますので、油脂などの汚れが付着したままエンジンを始動すると、焼けムラが起こります。焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いたあと、汚れが付着した場合と同じ要領で洗い落としてください。

汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。

アドバイス

ステンレス鋼を使用している場合でも、塗装をしているものもあります。

目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。
また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
  - ▶ もしバッテリーを車に積んだままにする場合は、⊖側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車を乗る際は、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。
また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

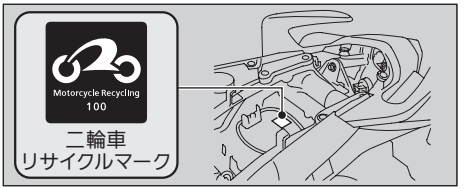
（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。

二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、お車をお客様から廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを取り外すと確認できます。P.46



お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。リサイクルマーク対象車かどうか不明の場合は、(財) 自動車リサイクル促進センターおよび二輪車リサイクルコールセンターにご確認ください。廃棄二輪車のお取り扱いに関しては、廃棄二輪車取扱店または二輪車リサイクルコールセンターまでお問い合わせください。

(財) 自動車リサイクル促進センター
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号 : 03-3598-8075
受付時間 : 9:30 ～ 17:00 (土日祝日、年末年始等を除く)

ダンパーユニット

リアサスペンションのダンパーユニットには、高圧チッ素ガスが封入されています。廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

⚠警告

高圧チッ素ガスが封入されたダンパーユニットを火中に入れたり、穴を開けたり、分解したりすると、爆発や破裂するおそれがあり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

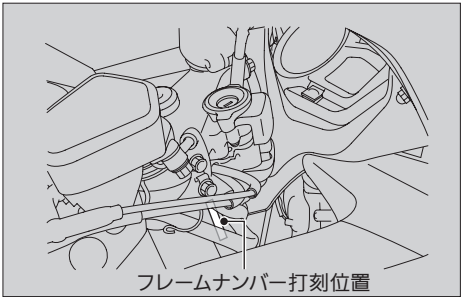
ダンパーユニットは、

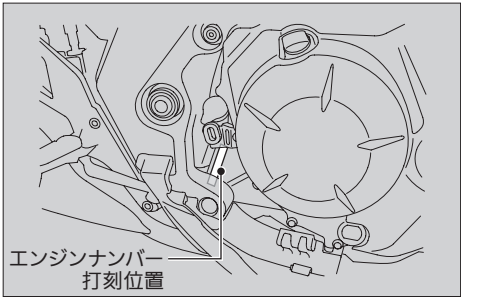
- 火中に入れないでください。
- 穴を開けないでください。
- 分解しないでください。

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。

エンジンナンバーは、右エンジンヒートガードを開けると確認できます。➔P.47





触媒装置について

この車は平成 19 年排出ガス規制適合車です。
この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の 3 つの有害物質の排出量を低減します。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、ただちに Honda 販売店で点検を受ける

■主要諸元

型式	EBL-SC63
全長	2,250 mm
全幅	**VFR1200F** 755 mm **VFR1200FD** 740 mm
全高	1,220 mm
ホイールベース	1,545 mm
最低地上高	125 mm
キャスター角	25° 30'
トレール長	101 mm
車両重量	**VFR1200F** 268 kg **VFR1200FD** 278 kg
乗車定員	2 名
燃料消費率※1	**VFR1200F** 20.5 km/ℓ **VFR1200FD** 22.0 km/ℓ (車速 60 km/h 定地走行テスト値)
最小回転半径	3.5 m
排気量	1,236 cm³
ボア×ストローク	81.0 × 60.0 mm
圧縮比	12.0
燃料	無鉛プレミアムガソリン
燃料タンク容量	18 ℓ

※1 定められた試験条件のもとでの値
(走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。)

バッテリー容量	12 V-11 Ah (10HR)	
変速比	**VFR1200F**	
	1 速	2.600
	2 速	1.600
	3 速	1.217
	4 速	1.034
	5 速	0.937
	6 速	0.866
	VFR1200FD	
	1 速	2.411
	2 速	1.700
	3 速	1.304
	4 速	1.034
	5 速	0.941
	6 速	0.885
減速比	**VFR1200F**	
	機関から変速機	1.738
	第 1 次	0.948 × 1.117
	第 2 次	2.545
	VFR1200FD	
	機関から変速機	1.738
	第 1 次	0.951 × 1.117
	第 2 次	2.545

■サービスデータ

タイヤサイズ	前輪	120/70ZR17M/C (58 W)
	後輪	190/55ZR17M/C (75 W)
タイヤタイプ		ラジアル、チューブレス
指定タイヤ	前輪	DUNLOP ROADSMART CQ K BRIDGESTONE BT021F N
	後輪	DUNLOP ROADSMART K BRIDGESTONE BT021R N
タイヤ空気圧 (1 名乗車時)	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm²)
	後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm²)
タイヤ空気圧 (2 名乗車時)	前輪	250 kPa (2.50 kgf/cm²)
	後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm²)
最小残溝量	前輪	1.5 mm
	後輪	2.0 mm
点火プラグ	標準	IMR9E-9HES(NGK)または VUH27ES (DENSO)
プラグギャップ	(調整不可)	0.80 ～ 0.90 mm
アイドル回転数		1,150 rpm
推奨 エンジンオイル	Honda 純正	ウルトラ G1
	JASO T 903 規格 : MA	
	SAE 規格 : 10W-30	
	API 分類 : SL 級	

エンジンオイル容量	**VFR1200F**	
	オイル交換時	3.0 ℓ
	フィルター交換時	3.2 ℓ
	全容量	4.0 ℓ
	VFR1200FD	
	オイル交換時	3.6 ℓ
	フィルター (エンジン) 交換時	3.9 ℓ
	フィルター (エンジンとクラッチ) 交換時	4.0 ℓ
	全容量	4.9 ℓ
エンジンオイル交換時期	初回 : 1,000 km または 1 ヶ月	
	以後 : 10,000 km または 1 年ごと	
推奨ファイナルドライブオイル	ハイポイドギアオイル SAE 80	
ファイナルドライブオイル容量	オイル交換時	200 cm³
	全容量	240 cm³
指定ブレーキ(クラッチ)液	Honda 純正	ブレーキフルード DOT4
冷却水容量	全容量	3.6 ℓ
指定ラジエーター液	Honda 純正	ラジエーター液
エアクリーナー点検・交換時期	点検 : 1 年ごと	
	交換 : 40,000 km ごと	

■バルブ（電球）

ヘッドライト	12 V-55 W X2
ブレーキライト	12 V-21/5 W
テールライト	12 V-5 W
フロントウィンカー	12 V-21 W X2
リアウィンカー	12 V-21 W X2
ポジションライト	LED
ライセンスプレートランプ	12 V-5 W

■ヒューズ

メインヒューズ	A	50 A
	B	30 A
その他のヒューズ	30 A、20 A、15 A、10 A	

A
ABS（アンチロックブレーキシステム）.....5
ABS 警告灯 20, 63
AT モード.....31
AT/MT スイッチ.....25
A ボタン.....14

B
B ボタン.....14

D
D 表示灯.....19
D モード.....31

H
HISS 表示灯.....21

M
MT モード.....31

N
N-D スイッチ.....25

P
PGM-FI 警告灯..... 20, 62

S
S 表示灯.....19
S モード.....31

U
U 字ロック.....35

ア
アクセサリー.....9
安全運転のために.....3
安全なライディング.....2

イ
イグニッションカットオフシステム.....69

ウ
運転するときの注意.....5

エ

エアクリーナー....43

エンジン

エンジンオーバーヒート....61
エンジンオイル....42, 49
エンジンオイルフィルキャップ....49
エンジンオイルレベル点検窓....49
エンジンストップスイッチ....22, 25, 68
エンジンナンバー....76
エンジンブレーキ....6
エンジン始動....26, 27

エンジンがかからないとき....60

オ

オーバーヒート....61
お手入れ....70
オドメーター....17, 68

カ

外気温計....16, 18
改造....9
各部の名称....10
ガソリン....8, 34
カラーラベル....39

キ

ギアチェンジ....28, 30
ギアポジション表示灯....16, 19

ク

クラッチ

クラッチ液....43, 54
クラッチレバー....56

ケ

警告灯

ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯....20, 63
PGM-FI 警告灯....20, 62
水温警告灯....20, 61
パーキングブレーキ警告灯....20
油圧警告灯....20, 62

携帯工具....35

コ

交換部品 39

サ

サスペンション

フロントサスペンション 57

リアサスペンション 58

シ

シート 46

シフトアップスイッチ (＋) 24

シフトダウン 28, 33

シフトダウンスイッチ (－) 24

触媒装置 77

書類入れ 35, 69

ス

水温計 16, 18

水温警告灯 20

スイッチ

AT/MT スイッチ 25

N-D スイッチ 25

ウィンカースイッチ 22, 24

エンジンストップスイッチ 22, 25

シフトアップスイッチ (＋) 24

シフトダウンスイッチ (－) 24

スタータースイッチ 22, 25

ハザードスイッチ 22, 24

パッシングライトスイッチ 22, 24

ヘッドライト上下切換スイッチ 22, 24

ホーンスイッチ 22, 25

スピードメーター 15

スペック 78

スロットル 55

セ

積載について 9

洗車 70

ソ

その他装備 35

タ

タイヤ 44
ダウンシフティングブリッピング コントロール 33
タコメーター 14

チ

駐車 6

テ

デュアルクラッチトランスミッション 30
点検
定期点検 38
日常点検 37
電装部品のトラブル 65

ト

時計 17, 18
トリップメーター 17, 18

ネ

燃料
燃料計 15
使用燃料 34
燃料タンク容量 34
燃料残量 15
燃料補給 34

ハ

パーキングブレーキ 53
パーキングブレーキ警告灯 20
パーキングブレーキレバー / リリースボタン 24
廃棄 73
バッテリー 40, 48
ハンドルロック 23, 25

ヒ

表示灯
HISS 表示灯 21
ギアポジション表示灯 16, 19
ニュートラル表示灯 21
ハイビームパイロットランプ表示灯 21
方向指示器表示灯 21
ヒューズ 41, 65

フ

服装 3

ブレーキ

ブレーキ液 43, 51

ブレーキシステム 5

ブレーキパッド 52

ブレーキレバー 56

フレームナンバー 76

ヘ

ヘルメット

ヘルメットホルダー 35

ヘルメットホルダーワイヤー 35

ホ

保管 73

ミ

右エンジンヒートガード 47

メ

メインスイッチ 23, 25, 68

メインスイッチのキー 68

メーター 14

メンテナンス 36

ユ

油圧警告灯 20, 62

リ

リサイクルマーク 74

レ

冷却水 43, 50

レッドゾーン 14

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受けいたします。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　**0120-086819**（オーハローバイク）

受付時間　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00

〒 351-0188　埼玉県和光市本町 8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日

②車種名、タイプ名、走行距離

③ご購入年月日

④販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30MGE601
00X30-MGE-6010

Ⓨ (HC) 500.2010.07.A
Ⓒ 2010 本田技研工業株式会社